2019(H31)年4月2日　＜Vol. 2019－No. 72＞

都志見新聞

(医)医誠会都志見病院
http://tsushimi.jp

発行部数　500部
発 行 月　1,4,7,10月
発 行 人　都志見病院
広報委員会

医療トピックス

地域がん公開講座

梅の花が香る平成31年3月3日(日)、萩グランドホテル天空「菊の間」におきまして、地域がん公開講座「がんと共に生きる」を開催致しました。当院主催による公開講座も6回目を迎えることができ、これも地域の皆様方のご理解とご協力のお蔭と深く感謝申し上げます。
また、当日は、3月といえども小雨の寒い中、84名もの方々が会場に足をお運びくださいましたこと、心より御礼申し上げます。

講演会は、まず、当院副院長　山本達人医師による「がん診療の現状と展望」と題して講演がありました。最近のがんの治療、山口県のがん診療の現状について情報を知ることができ、「早く発見、早期に治療」の必要性を理解することができました。

次に、特別講演と致しまして、講師にライフ・ターミナル・ネットワーク代表／終活ジャーナリストの金子稚子(かねこわかこ)先生をお招きして「がんと共に生きる～家族の立場から～」というテーマでご講演をいただきました。
金子稚子先生のご主人は2012年10月に他界されました流通ジャーナリストの金子哲雄様です。死別経験者として当時のお話も交え、死の前後に関わる事象や家族の取り組みについて、私たちに分かりやすい言葉で説明され、多くの示唆と感銘を頂きました。また、講演後の質疑応答では、参加された市民の方々から、積極的に質問をされるなど、金子先生と貴重な時間を過ごすことができました。金子先生の凛とされたお姿に私自身、憧れを抱き、お話の内容の深さにもっともっと聞いていたい、もっと時間があれば･･･と切望致しました。金子先生にはお忙しい中、遠方までお越しいただきましたことを深謝いたします。

今、超高齢化・多死社会の時代であり、がんは2人に1人の割合で罹患する時代です。「がんになっても生き抜く時代」になりつつある今、健診を受け、早期に診断・早期に治療を行えば、「がんと共に生きる」ことが可能なのです。当院は、これからもこの地域がん公開講座を継続し、開催して参ります。この講座が地域の皆様のお役に立つことができましたなら、当院のがん診療チームもこんなに嬉しい事はありません。次回も是非ご期待下さい。

院長補佐・看護部長　小西 恵

都志見病院訪問リハビリテーション室

私たちは利用者さんの『～してみたい』を応援します!!

訪問リハビリテーションは、在宅生活において心身機能の維持･回復および日常生活の自立と社会参加を目的として提供されるサービスです。病院やリハビリテーション施設への通院が困難な場合、退院･退所後の日常生活に不安がある場合など、主治医により訪問リハビリの必要性が認められた場合にサービスを受けることができます。本人の症状や自宅の構造、家族の介護状況などを考慮しながら、理学療法士が在宅を訪問し、実生活の場で行うことができる訓練方法や介助の仕方、環境整備など、リハビリテーションの観点から療養上必要な指導を行います。

安全に家の中を歩きたい

自宅のお風呂に入りたい

トイレに行けるようになりたい

家から外に出てみたい

介護保険で訪問リハビリテーションを利用するには、介護プランの計画を立てていただく必要があります。ご希望の方は担当ケアマネージャーにご相談ください。医療での訪問リハビリも行っておりますが、条件がありますので、ご希望の方は一度ご相談ください。

在宅生活自立に向けるには介護プランの計画において短期集中的なリハビリテーションが効果的です！

都志見居宅介護支援事業所とは!!

- 将来の介護について**不安**・・・
- 介護サービスを**利用**したい・・・
- 家族の介護について**相談**したい・・・

私たちは、医療･保健･福祉分野で、実務経験をもった専門職です。

安心してご相談ください

ご利用者様の状態に合わせてケアプランを作成し、サービス事業所の調整などを行い、適切にサービスが利用できるようにします。

-シリーズ- “がん”について知っておこう「胃がん」

今回は日本人が最も多くかかる癌「胃がん」についてお話します。胃がんは、一生のうちに、男性の約9人にひとり、女性の約18人にひとりが胃がんと診断されており、がん死亡数では男性が第2位、女性が第3位となっています。

胃がんは、胃壁の内側にある粘膜に発生し、その粘膜から徐々に粘膜下層、固有筋層、漿膜へと外側に向かってがんが広がっていきます(図1)。がん細胞が、粘膜または粘膜下層までにとどまっているものを「早期がん」といい、筋層より深く達したものを「進行胃がん」といいます。胃がんが発生する原因については、多くの研究が行われておりますが、いくつかのリスク要因が指摘(図2)されており、できやすい場所は胃の下部(図3)の率が高くなっております。

胃がんは、早い段階で自覚症状が出ることは少なく、かなり進行しても無症状の場合があります。代表的な症状は、胃の痛み・不快感・違和感、胸やけ、吐き気、食欲不振などがありますが、これらは胃がん特有の症状ではなく、胃炎や胃潰瘍(いかいよう)の場合でも起こります。検査をしなければ確定診断はできませんので、まずは医療機関を受診し、検査を受けることが重要です。症状の原因が、胃炎や胃潰瘍の場合でも、内視鏡検査などで偶然に、早期胃がんが発見されることもあり、貧血や黒色便が発見のきっかけになる場合もあります。食事がつかえる、体重が減る、といった症状は、進行胃がんの可能性もあるため、早めに医療機関への受診をお勧めします。

図1

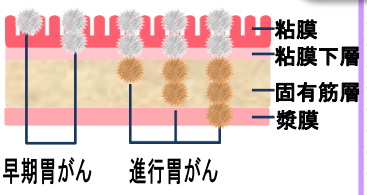


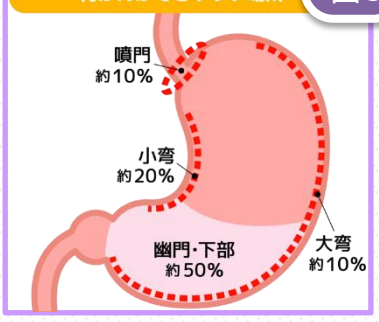
図2

胃がんの主要なリスク要因

- 多量の塩分
- 喫煙
- ヘリコバクターピロリ菌※
- 多量の飲酒

※ヘリコバクターピロリ菌
ピロリ菌は胃にとりついて炎症を起こす細菌です。胃がんの危険因子のひとつとされますが、感染した人の全てが胃がんになるわけではありません。

図3



胃内視鏡検査の様子

当院では、予約なし(診療当日の朝絶食で来院)で胃内視鏡検査を受けることができ、検査時間も5分程度と患者様への負担をなるべく少なくするように努めております。胃に違和感などがある場合は、是非早めに検査をお受け下さい。

副院長(外科医師)　山本達人

災害対応研修

3月4日(月)　事務部災害対応研修を実施しました。
事務部門系の約70名が参加し、あらかじめ設定された地震での発災被害状況と病院方針に対し、皆で必要な役割を考え出し、それに適材適所な人員配置をするという流れのグループワークをしました。災害時に事務部門は何を求められるのか、また普段からの備えとして何をすればいいのを勉強する良い機会となりました。

ナースのひとこま

看護部の新人研修報告

5月　挿管の介助

4月　注射技術

5月　経管栄養法

1年かけて、当院の新人だけでなく、他病院（玉木病院、慈生病院、全眞会病院）の新人看護職員も参加して研修を行っています。

講師は当院の先輩看護職員です。分かり易い研修をモットーに、新人がスキルアップできるよう熱心に取り組んでいます。

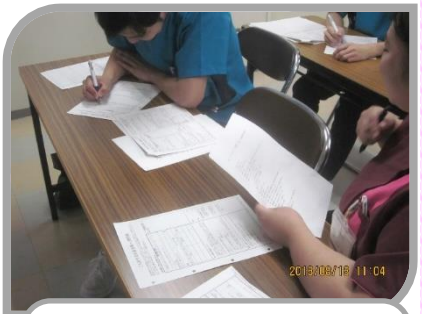
次年度は先輩です。後輩をよろしく･･･ね♪

2月　死亡時のケア・エンゼルメイク

6月　ポンプの使い方

1月　急変時の対応

7月　感染予防・滅菌・消毒方法



8月　個人情報の取り扱い、入院時の対応

12月　医療安全

11月　多重業務を解決しよう！

訪問看護ステーション『つばき』管理者交代

つばき管理者
野村　静

平成31年1月から訪問看護ステーションつばきの管理者になりました、野村静です。看護師免許を取得してから21年、様々な診療科の病棟や外来の勤務をして参りましたが、自分自身がやってみたいと思っていた「訪問看護」の仕事に3年前から従事しております。私が、「訪問看護」に携わりたいと思ったのは、療養病棟での経験が大きかったと思います。療養病棟では、急性期病棟に比べ患者様の入院期間が長いこともあり、ひとり一人の患者様との関りも長く、常に「私が関わる患者さんには、いつも生き生きとしていて欲しい！」と思い、そのことを念頭におき勤務していました。中には、自宅に帰られる患者様もおられますが、患者様ご自身やご家族が自宅での療養に対する不安を抱えていることにより、なかなか在宅療養に踏み切れないケースもありました。　一人でも多くの患者様に、癒しの場であるご自宅での生き生きとした療養生活を実現するお手伝いができれば･･･と思い、現在に至ります。

「つばき」では、ご自宅で療養されている皆様が、安心･安全に自分らしい生活を続けられるように、在宅医療のスペシャリストとして利用者様やそのご家族の支えになることを目標としています。

ご自宅で自分らしく暮らしたい、最期は自宅で看取りたい、看取られたいなど、利用者様やご家族の思いを実現できるよう、また不安を少しでも解消できるようにスタッフ一同、日々努めております。

まだまだ未熟で、関係各位の皆さまにはご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、宜しくお願い致します。

訪問看護ステーションつばき 管理者　野村　静

がん医療安全管理専従看護師

安心安全

石井　恵子
看護師

当院は平成27年度より地域がん診療病院の指定を受けています。がんの診断を受けた患者さまに標準的治療が状態に応じて適切に提供できるようにしていく必要があります。放射線治療や一部のがん診療については、山口大学医学部附属病院との連携により対応できる体制を確保し、がんと診断された患者さまの苦痛が迅速にかつ適切に緩和されているのかを常に振り返りながら、医師･看護師･薬剤師･管理栄養士･リハビリセラピスト･MSなど多職種によるチームで対応しています。どの部署もそれぞれのスタッフが与えられた業務やケアを安全に提供できるよう奔走しています。1月から「がん医療安全専従看護師」の任命を受けました。医療安全管理部の一員として、部署を横断的に渡り、患者さまに安全な医療が提供されるよう安全に関わるトピックスの紹介、ヒヤリハットした事例レポートの把握および事故防止対策の検討を行ってまいります。啓蒙活動や職員に対する研修を行うことにより安全な医療と医療の質の向上を担っていきたいと考えております。

当院では患者さまやご家族からの医療安全に関する患者窓口を「地域連携室」(正面玄関横)に設置しています。ご意見や相談に応じられるような体制をとっておりますので、お気軽にお声かけください。

がん医療安全管理専従看護師　石井恵子

患者サービス向上委員会主催

山口県立萩高等学校 合唱部コンサート

3月20日(水)14:00～東館1階待合室で行われました。生徒さんは16人、若く美しい歌声に癒されました。約80人と多くの方がご鑑賞くださいました。ありがとうございました。

平成３１年度　新入職員紹介

今年度の新入職員です!!
皆さんよろしくお願いいたします。

後列左から
角倉、河野、海老谷、室谷、小枝、福田、大深、田村(祥)、横村、田部、平岡、田村(望)
中列左から
金田、金子、井町、山下、斉藤、片山、土田、原田、刀禰、中谷、好永、奥藤、原
前列左から
溝部、今井、波田野、山本、三井、安達、山田、大峠、末益、神﨑

新入医局員紹介

４月に入局された先生にインタビューしました。
①趣味は？
②尊敬する先生とその理由
③医師になろうと思ったきっかけは？
④もし医師になっていなければ･･･？

外科
鍋屋まり

①料理、食べること(おいしいものを食べる)

②山本達人先生
医療において様々な分野に精通されており、外科医としても尊敬していますが、1人の人間としても、とてもエネルギッシュで魅力的な先生です。

③子供の頃、親に買ってもらった「人体のしくみ」という本にはまってずっと読んでいたのがきっかけかな？

④ネイリスト。細かい作業が好きなので･･･。

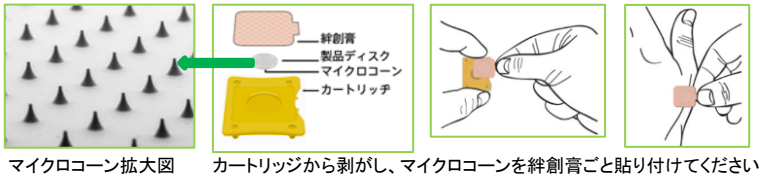
No.7 膝痛のケア ソマセプト編

図1. 膝内側痛に対する
３点貼り

前回のコラムで紹介させていただいた疼痛ケアツール“ソマセプト”を実際に膝内側痛のケアに使用する方法をご紹介させていただきます。

膝痛の原因の多くは筋・筋膜にあります。関節の変形は、加齢変化に伴うものであり避けられない状況にあります。母趾から膝へつながる筋膜を弛ます貼り方（図1）をすることで、膝内側痛を軽減する効果を得ることが期待できます。ぜひお試しください！ 図1のように点線に沿った3点貼りをお勧めいたしております。

ソマセプト



マイクロコーン拡大図　カートリッジから剥がし、マイクロコーンを絆創膏ごと貼り付けてください

リハビリテーション部スタッフは笑顔と感謝をもって患者様をお迎えしております。
痛みのことなら何でもご相談くださいませ。

耳鼻咽喉科からのご案内

平成30年12月31日に田中耳鼻咽喉科医院様が閉院されましたことにより、萩市内の耳鼻咽喉科は、堀耳鼻咽喉科医院様と当院の2ヵ所となりました。
花粉症やアレルギーをはじめ、耳・鼻・のどの違和感・めまい等の症状でお悩みの方がいらっしゃいましたら、どうぞお気軽にご相談ください‼
当院の耳鼻咽喉科診療日は各科別診療担当表に掲載しております。ご参照ください。